



# 碧南ロータリークラブ週報

第2585回例会 平成24年3月7日(水)

● 会長 石川 春久 ● 幹事 平岩 辰之 ● 会場監督 (SAA) 新美 惣英

2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
- TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
- E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 鈴木健三・菅原 優・永坂誠司・鈴木宏枝



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

## ● 齊 唱

国歌「君が代」  
ロータリーソング「奉仕の理想」

## ● 四つのテスト唱和

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

## ● 本日のお客様

社会福祉法人 日本介助犬協会 事務局長・医学博士 高柳友子様  
社会福祉法人 日本介助犬協会 広報部 柴原永佳様



石川春久会長

## 会 長 挨拶

先週の日曜日の市民駅伝大会では当ロータリークラブをはじめ多くのチームにご参加をいただきまして誠に有難うございました。沿道の皆様への応援に感謝をしつつ、おかげさまで全チームのたすきが無事ゴールをいたしました。来年は40回目という節目の大会になりますのでよろしくお願い申し上げます。

## 副 幹 事 報 告

- ・例会変更等は報告書の通りです。
- ・本日の理事会はよろしく願いいたします。



木村徳雄副幹事

## 委 員 会 報 告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数71名(内出席免除者14名の内出席者9名)出席者55名

出席対象者 55/65名 出 席 率 84.61%

欠席者16名(病欠者1名) 前々回修正出席率 98.48%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 長田 昌昇君 杉浦栄次君にお世話になりました。  
石川 春久君 第39回市民駅伝大会、ありがとうございました。  
木村 徳雄君、新美 真司君、角谷 信二君、杉浦 栄次君

3月3日、4日、長田昌昇さんに大変お世話になりました。

- 奥田 雪雄君 3月11日、名古屋ウィメンズマラソン大会に長田豊治君の娘さんが出場するとの事。応援して下さい。  
碧南市民駅伝大会、無事終了致しました。ありがとうございました。
- 岡本 明弘君 「介助犬への理解を深める」ということで、本日のクラブフォーラムは社会奉仕委員会で担当させていただきます。
- 山中 寛紀君 本日の講師 高柳友子先生をご紹介します。

### 〈親睦活動委員会〉

#### 会員誕生日

2日 杉浦 保子君 15日 小笠原良治君 16日 黒田 泰弘君 20日 平松 太君  
22日 粟津 康之君 24日 菅原 優君

#### 奥様誕生日

1日 寺尾 政記君の奥様 加代美様 3日 寺尾 正史君の奥様 広美様  
9日 西脇 博正君の奥様 京子様 10日 犬塚 敦統君の奥様 清子様  
13日 奥谷 弘和君の奥様 由紀子様 24日 小笠原良治君の奥様 恵子様  
29日 大竹 密貴君の奥様 弥生様

#### 結婚記念日

16日 長田 和徳君・真由美様 21年 20日 平岩 辰之君・範江様 29年  
27日 加藤丈太郎君・美恵子様 49年

#### 入会記念日

2日 大川 隆雄君 3日 小林 清君 3日 杉浦 保子君 3日 鈴木 宏枝君  
5日 山中 寛三君 11日 石川 春久君 15日 杉浦 求君 15日 鈴木 敏弘君  
15日 平岩統一郎君 18日 鈴木 並生君 23日 鈴木きよみ君 25日 菅原 優君

## 卓 話

### 「障害者の自立を支える介助犬」

社会福祉法人 日本介助犬協会 事務局長・医学博士 高柳 友子氏

介助犬とは、手や足に障害のある方々の日常生活動作を助けるために落としたものを拾って渡す、手が届かないものを持って来る、引き出しや冷蔵庫を開けて中からものを持って来る、緊急時の連絡手段として携帯電話などを手元に運ぶといった動作を行うよう訓練された犬のことをいいます。介助犬は、2002年に制定された身体障害者補助犬法（補助犬法）で法的位置づけが明確になり、補助犬法では、同法により認定された介助犬を使用者である障害者が同伴することを拒んではならないと定められました。未だこの法律の認知



高柳 友子氏

度が低いため、介助犬使用者が飲食店や店舗、医療機関等で「犬は置いて来て」と店舗の利用を断られてしまうことが多々あるのが実情です。補助犬法では、介助犬より40年歴史の古い盲導犬、そして介助犬よりさらに少ない聴導犬の3種の犬を総称して身体障害者補助犬、略して補助犬としており、これら補助犬が認定を受けると、使用者は補助犬法に則り、「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の別が書かれた表示をつけ、また認定証と健康管理手帳を携帯することが義務付けられま

す。認知度の高い盲導犬ですら同伴拒否に遭うことがあります。補助犬を断ることは、使用者自身を断ることと同じだということをご理解頂きたいと思います。

介助犬は、前述したような動作のほか、歩行介助や起き上がり・立ち上がりの介助、衣服や靴・靴下の着脱、スイッチ操作などを行うなど、多様な障害者の個々のニーズに合わせてリハビリテーションの一環として介助内容が決められます。身体障害の背景として進行性の疾患や重度な合併症、体調の変動が大きいなど多彩な医療的配慮が必要なのが介助犬訓練の大きな特徴で、介助犬トレーナーはリハビリ医療関係者との密接な連携が必要です。自立のためには様々な手段がありますが、介助犬は機能的介助に留まらず、障害者の生きがいとなり様々なチャレンジへの動機づけとなり、また周囲の人々と犬を介した会話が広がることで大きなリハビリ効果を発揮し、元気と勇気を与えられます。

現在介助犬は全国に57頭（平成23年11月1日現在）、対象となる障害者は175万人、中でも1万人以上の潜在需要者がいるといわれています。普及への課題は、認知度が低いこと、また財源が寄付に頼られていることが主ですが、そのために訓練士の資格制度がなく、また遺伝性疾患のない候補犬の確保が難しいなど課題もあります。

これまで10年間、最も長く、零細ながらも最多の実績を残してきた当会は、今年新たなる介助犬普及への挑戦として、全国では初めてとなる介助犬専門施設「介助犬総合訓練センター」を愛知県長久手町に建設します。訓練センターは、補助犬法制定のきっかけとなった故介助犬シンシアにちなんで「シンシアの丘」と名づけられました。

介助犬の普及を支えてくださる企業や個人のみなさまに会員として、または施設へのご協力を頂くお願いをしております。一人でも多くの方々に介助犬の存在を知って頂き、また一人でも多くの障害者が介助犬によって自立し、楽しく社会参加ができるようにご支援を頂ければとお願いいたします。

**次回例会案内 平成24年3月21日(水)**  
**卓話「シニアツアーで長尺パターが多い訳」**  
プロゴルファー 中村 彰男氏